

掲載日	タイトル	catch the eye 短文
2013/7/1	朝陽が盛りたてる	コラムにも書いたが、今朝、朝陽がさっそうと昇った。週の始まり、今年後半の始まりを盛りたてるよう。この節目にあわせて、ホームページをみなおし、少々再編集。さてさて、まずはこれからやってくる酷暑をのりきり、稔りある後半にしていきましょう。
2013/7/2	高速バス	朝7時半ごろ、信号待ちをしている前を高速バスが通る。カーテンで閉じられた車内、どこか遠くから大阪へ着いた。阪急梅田にあるバスターミナルへ向かう。ナンバーをみると、「足立」、「福岡」。なんと長い道のり。そういえば7年前にプサンからアンドンまでバスで行った。長かった。でもバスも悪くない。その土地の暮らしが見える。ターミナルごとに土地柄がある、人々の様子が違う。さて、大阪はどう映るかしら。
2013/7/3	エスカレーター	朝から梅雨空。曇り時々雨の予報。蒸し暑い。クーラーの効いた地下鉄車内で昨夕の新聞を読む。エスカレーターの話。片方を空ける習慣、定着せずいぶんになるが、最近「二列で」のアナウンスも増えた。長い列とつくってまで片方を空ける光景、ムダだなあといつも感じる。以前は利用者がもっと臨機応変に対応していた。混みあうと二列になったもの。深く考えなくてもその方が効率的で安全。こういったことも、明示しなければならないのが今の時代か。
2013/7/5	扇子	いよいよ本格的な暑さ。朝から相当にむし暑い。地下鉄車内には扇子を手する人がそこかしこ。この扇子がけっこう重宝する。汗がさっと引くし、おさえる。真夏だけでなく、季節の変わり目などにもいい。外は快適な気温なのに、車内や室内に入ると暑いという時にもってこい。ということで、年中バッグの中に入れてある
2013/7/6	夏は哲学的？	ひょっとして梅雨明け？今朝の陽射しがそう思わせる。すると微かに蝉の声。聞えた気がしたけど、鳴き声は続かなかった。昨日に続く、うだるような暑さ。7日は小暑。むこう一ヶ月が夏のピーク。できればこの間に一人旅をしたい。四季の中でも、夏の旅にひとときわ郷愁感が漂う。夏が野性をみせて、それに感応し、人を哲学的にする。そういえば、夏の暑い時こそ、難しい本を読むという人がいる。夏は哲学的？

掲載日	タイトル	catch the eye 短文
2013/7/9	7月初めの夕空	近畿も昨日梅雨明け、今日も厳しい暑さ。朝から陽射しが強い。混みあう通勤電車、人々の顔には疲れの色。月末になると、暑さにも少し慣れてくる。今がちょうど堪える時。しかし、この時期の夕空がいい。太陽の沈む直前、西の緋色から頭上の瑠璃紺のグラデーション。昨日の帰り道、見上げて思い出す、いつか見た空。“あの時と同じだ”。2004年7月4日、三室戸寺の象鼻杯を堪能し、開店時間と同時にいった京大のレストラン、食事をすませて時計台の下に立つと外はまだ明るい。思わず見上げた空の何と詩的だったこと。夏は暑いばかりじゃない。
2013/7/12	考える時間	熱中症で救急搬送される人が全国で多数。尋常でない暑さが続く。とにかく体調に気をつけたい。先日会った女性経営者はちょっとしたことで先月緊急入院したという。免疫力が低下してのこと。13年ひた走ってきたから、落ち着いて考える時間をもててよかったとの弁。こういうことを契機にまた広がる許容範囲。
2013/7/15	海の日	いつもと同じ時間帯に降りた中津駅、ホームの中ほどから出口を目指して歩く先に、見覚えのある姿。背格好、風貌、髪をかきあげるしぐさ。目の前を通る間際まで目を凝らす。でも、違った、別人だった。体格が似るとしぐさも似るのか。十代の頃、ともに塾で学んだ同窓、一緒に行った夏の海キャンプを思い出す。今日は海の日
2013/7/18	子供の世界	今朝、ふと夏の終わりを感じた。風の肌合い、陽射しの感じ、いくつかが絡み合って。山鉾順行も昨日終わった。でも立秋までにはまだ間がある。学校が夏休みに入るのもこれから。それをたのしみにしているような子どもを地下鉄車内で見た。女性専用車両と一緒にのりこんだ小学3年生ぐらいの男子。席の空くのをキョロキョロ。空くとすぐに座って襷掛けのカバンからプリントを出し見ている、それも鼻歌まじりに。電車を降りる前には早々に席を立ち、プリントをカバンに入れて、ドアのガラスを鏡に、小声で歌いながら、身支度。何かいい事でもあるのか、自分の世界の愉しむ姿が無邪気でもいい。みんなこういう時代があった。
2013/7/20	夏こそ旅	今年は夏が早くきて、はやく過ぎていく。そんな感じがする。昨夜は涼しかった。今朝は少々寒かった。朝の陽射しも幾分よわくなっている。空の様子が何となくやさしい。旅心を誘われる。そういえば今年の信濃木崎夏期大学はどんなだろう。もう11年前のこと。何かいい学びの場はないかと探している、そう話したら、自分も最近聞いたばかりだと言って知人が教えてくれたこの講座。受講もさることながら、三泊四日の旅そのものが、この十数年では一番心に残り、よみがえる。厳しい冬とはちがって、自然がおだやかで、開放的。せまる山並み、独り歩く夕ぐれの日道、遠くまで見える線路。すべての状況設定が人の野性に響く。やはり夏こそ、旅。

掲載日	タイトル	catch the eye 短文
2013/7/23	大暑	昨夜は本当に暑かった。何度目を覚ましたことか。涼しい風が吹き始めたのは明け方、日が昇るまでの一瞬。その後は蝉が元気よく鳴きだした。今日は大暑で満月。今夜晴れならピヤガーデンも一興、暑いのを我慢すれば。あつというまに7月も下旬、明後日は天神祭、夏も佳境。
2013/7/24	3ヶ月にして	大阪は曇り空。雨さえ降らなければ今日明日の天神祭には、やる人も見る人も、さいわい。毎年すごい人出。人出といえればグランフロントの人出はかなり少なくなってきた。南館はまだしも北館は、これで大丈夫かとこちらが心配になる。その北館の北端にある庭。予想はしていたが、そこかしこに注意書きの札が立つ羽目に。池の中に入ったり、芝生でタバコを吸ったり……。とうとう、縄をはり、不粋な注意書に至る。コンセプトの「お散歩気分」は台無し。ここもまた特別な場所ではなくなりつつある。
2013/7/26	時間	いやはや暑い。朝のうちに、どっと汗をかく。電車に乗って一息、クーラーがよく効いていた。さて、7月も残りわずか、そろそろ年末まで運びが見えてくる。来年の手帳のレフィルもほしくなる。三番街の紀伊国屋の文具売り場へ寄ってみた。まだ出ていなかった、仕方ない。手帳のレフィル以外は自分で作っているから問題ない。長期100年分から短期（日々）まで。そんな風にしても、時間にはいつも驚かされる。時間をこちらが追い越しているようで、追い越されている。いつも気にとめているはずなのに、気がつけばあつという間に時間がすぎている。時間にしてやられる。いつもついてまわる時間、足並みがそろわないのもまた時間。
2013/7/29	母は強し	中津駅近くで子供のための何かあるのか、信号待ちで子供づれの母親を二人みた。一人は胸元に赤ちゃんを抱き、左手には4歳ぐらいの女の子。小ぶりの雨の中、傘をさし、肩かけた大きなバックからタオルハンカチを出して、女の子の額の汗をぬぐっていた。大変だなあ、お母さんは……。すると自転車の前後ろに子供を乗せた母親が別にいた。雨が降るので前と後ろの子の頭からすっぱりビニールのカバー。母親本人も傘をさす。それで自転車を漕げるのかと見ると、電動自転車だった。それにしても……。本当に、母親は強い。これを乗り越えるから、同じ女性でも、別ものになるのだ、母親は。
2013/7/31	スマホ皺	不安定な天気が続き、むし暑い。クーラーの効いた電車に入るとほっとする。ところで今どきの電車内は顔を上げている人は少ない。ほとんどの人が下を向いてスマホを見入っている。人の書き込みを読む、ゲームをする、などなど。若いうちから目を悪くするだろうなあといつも思うが、先日気づいたのは、二重顎と首の皺。朝のラッシュ時、下向くまわりの女性たちの横顔をみて、年齢のわりにはやく皺になるんじゃないかと思った。何事もほどほどに。